

# 分裂機制についての覚書

(Notes on Some Schizoid Mechanisms ; 1946)

## 概略と時代背景

乳児が最早期から用いる分裂機制についてのまとめた論文。Dポジションに対する‘P-Sポジション’や特殊な防衛機制である‘投影同一視’が提唱された論文でもある。統合失調症の精神分析についての理論が確立されていなかった時代において、青写真的存在と言える部分も含まれている。それ故、特に投影同一視については現代の定義とは幾分異なるところもある。

## 序文、フェアバーンの論文について、早期自我に関する幾つかの問題(pp3-8)

本論文に至るまでの、分裂機制に関するクライン自身の考えをまとめ、問題の整理を行っている。

- ・対象関係は生の初めから存在し、破壊衝動が対象に向かい、迫害的恐怖を形成する。
- ・(口愛的、肛門期的)サディズムの衝動と死の本能から生じている(フェアバーンとの差異)
- ・抑うつポジションに先行するものとして‘妄想 分裂ポジション’がある。
- ・エス - 自我 - 超自我の関係についてはここでは述べない(自我論との区別)。
- ・自我機能の幾つかは生の初めから存在し、最も顕著なのは不安を処理する機能である。

## 対象との関係における分裂の過程(p9-p10 中段)

乳児の中でいかにして分裂機制が進んでいくか述べている。

- ・幼い乳児の空想の中では、良い乳房と悪い乳房が分離している。良い乳房は完全なもの、悪い乳房は断片化されたものとして感じられる。
- ・乳児の感情は欲求不満と不安で揺るがされ、良い乳房と悪い乳房を分離したままでいることが困難になり、良い乳房もまた細分化しているように感じる。
- ・なぜなら、自我が内的対象、外的対象それぞれを分裂させることは、自我の内部にそれに対応する分裂が起こらなければ不可能であるように思われるからである。
- ・対象が細分化されればされるほど、自我は分裂する危険にさらされることになる。

## 投影と取り入れに関連した分裂(p10 中段-p17)

投影と取り入れの相互的關係の特殊な形として 投影同一視 を提唱し、それが正常な発達の一部を形成すると同時に、自我を脆弱にして精神病の源泉になる危険性について述べている。

- ・分裂の機制と同様に、取り入れと投影もまた、生の初めから用いられる。
- ・迫害する対象は、理想化された対象からはるかに遠くに置かれ、存在そのものが否認される。このことは、対象関係が否認されることであり、対象だけでなく自我の一部も同じように否認される。
- ・母親(対象)が自己の悪い部分を含み持つ限り、母親(対象)は分離した個体として感じられず、むしろその悪い自己として感じ取られる。この同一視の特殊な過程について‘投影同一視(projective identification)’という言葉で提唱したい。
- ・外界に追放された感情や人格の攻撃的な要素は、強さ、知識などの望ましい特徴と密接に結びついていて、さらに、自己の悪い部分だけでなく自己の良い部分もまた追放され投影されるような過剰な投影が生じる。これらの結果、自我は極端に脆弱となり、分裂の過程をさらに推し進めざるを得ないことになる。
- ・この感情は解体の状態にまで達するが、一過性には正常な発達でも生じる。しかし、しばしば、または長くそのような状態が続く場合、乳児における精神分裂[統合失調症]性疾患の徴候と見なされ、成

人の場合の離人状態と精神分裂病[統合失調症]性の解離は、このような乳幼児の解体への退行と思われる。

### 分裂的対象関係(p17-p19 中段)

分裂的パーソナリティにおける対象関係の幾つかの特徴について述べている。

- ・理想自我が投影されても、悪い部分を投影していたとしても、同じように自己の一部であり、自己愛的な性質を帯びる。
- ・顕著なわざとらしさ、自然さの欠如、換言すれば、心的現実と外的現実に対する関係が障害を受ける。
- ・いくつかの特徴は、程度が軽く目立たない形として正常な人びとも見いだし得る。

### 妄想 分裂的ポジションとの関係における抑うつ的ポジション(p19 中段-p21 下段)

- ・妄想 分裂的ポジションが現れるのはおよそ生後から3か月程度であり、4か月から6か月の間に抑うつポジションが前面に現れる。
- ・悲哀(mourning)にも似た状態、強い罪悪感、償おうとする衝動が現れ、これは心的現実に対する優れた洞察と統合が進んだ結果である。
- ・この歩みのなかで、不安はその力を失い、対象はそれほど理想化されなくなり、恐ろしくなくなる。
- ・発達が正常に進展せず、抑うつ的不安の衝撃に対応しきれない場合、自我は妄想 分裂的ポジションへと退行せざるを得なくなり、早期の迫害的恐怖と分裂機制は強化されてしまう。

### 分裂的現象と躁うつ的現象との関連性(p21 下段-p24 中段)

躁うつ病患者との分析治療において、分裂的機制が生じた経験から、統合失調症と躁うつ病が従来推測されていた以上に発達上相互に関連し合っている可能性について言及している。

- ・未だ抑うつ状態や躁状態のさなかであった時ですら、しばしば抑うつ的機制と分裂的機制が同時に出現した。
- ・自責感と劣等感にさいなまれ、涙が頬を伝い落ち、絶望的な振る舞いを見せたにも関わらず、これらの情緒を指摘すると、そのような感情はまったく感じていないと述べた。
- ・統合失調症の場合に示唆することができるのと同じように、躁うつ病においても2つのポジションの特徴を混合した臨床像を呈する根拠になるかどうかという問が発せられる。

### 分裂的防衛(p24 中段-p27 中段)

分析治療における分裂的防衛の特徴と対応について述べている。

- ・患者が分析者との交流に支障を来すこと、解釈に対する反応が欠如すること
- ・「私はあなたがおっしゃることを聞いています。あなたは正しいでしょう。でも私にとってあなたがおっしゃることは何の意味もないんです」
- ・「意味がない」という表現は解釈に対する積極的な拒絶を意味しているのではなく、人格と感情のある部分が分裂排除されていることを示している。
- ・(このような分裂的機制を用いる)彼らは解釈を受け入れることも拒絶することもできない。
- ・解釈は、過去との関連を含む、その時点での転移状況を詳しく扱わなければならないし、分裂的機制への抵抗へと自我を駆りたてる不安状況との関連づけも含まなければならない。
- ・この方針にそった解釈の結果生じる統合は、さまざまな種類の抑うつと不安を伴い、よい統合がそれに引き続き、対象関係に根本的な変化を生じさせる。
- ・分裂機制が抑圧とどのように関連しているかという疑問が生じるが、ここでは扱えない。

### 分裂的患者の潜在的な不安(p27 中段-p28 下段)

- ・ 分裂的患者を無反応にさせる情緒の欠如には、不安の不在(absence of anxiety)が伴っている。
- ・ 分裂的患者が抱いている潜在的な不安は、消散という特殊な方法によって潜在的に保持されている。
- ・ このような消散を伴う自己の分裂を統合しようとする解釈は、不安を不安そのものとして次第に体験できるようにするものである。
- ・ 分裂的状態の解釈を行う場合、意識、前意識、無意識相互間の連絡が確立できるような、知的で明確な解釈を行う能力が治療者に要求される。

### 補遺(p29 中段-p32)

分裂的機制とフロイトのリビドー論の関連について世界崩落妄想を持つ患者の症例報告(Freud:1911)から引用して考察している。

- ・ 患者は外界の人々に向けていたリビドー備給を撤回し、その結果、外界存在のすべてが彼にとってどうでもよいもの、無縁のものになった。患者が示す世界没落の妄想は、この内的な破局の投影である。
- ・ リビドー分配(備給)の障害は、破壊衝動とリビドーとの解離を前提としている。
- ・ 世界没落妄想は、主治医の魂への侵入が根底にあり、破壊衝動がリビドーよりも優勢であることを意味している。
- ・ 従って早発性痴呆に関する素因的な定着は、パラノイアの定着よりもさらに以前の段階に存在していて、自体愛から対象愛へ進む発達の出発点に求めなければならない。

### 論文に関する考察とディスカッションのポイント

- ・ 分裂機制については概念や定義を読んだだけだったが、クラインの論文を読んでその本質とされる部分についての理解が深まった気がした。
- ・ 対象関係論はフェアバーン以降、本能論とは切り離されて論じられるようになっていたと読んだ。その方がわかりやすいと思う一方、クラインの論文から感じる何とも言えない渾沌とした状態も、生々しく乳児の体験が描かれているようにも感じた。
- ・ 投影同一視の定義についてもどちらかといえば Kernberg,O.の BPO に特徴的な防衛機制のひとつとして理解していたが、クラインとその他の理論の差についてはまだ整理できておらず、参加者のみなさんの意見を伺いたい。

### 参考文献

- 馬場禮子(2009)精神分析的な人格理論の基礎 心理療法を始める前に(第2刷) pp87-89, pp117-151, pp188-211 岩崎学術出版社
- 中村俊哉(1992)投影同一化(投影同一視) In 氏原寛・小川捷之・東山紘久・村瀬孝雄・山中康裕編 心理臨床大辞典(初版) pp983-984 培風館
- 吉澤一弥(1992)対象関係総論(その歴史と展望) In 氏原寛・小川捷之・東山紘久・村瀬孝雄・山中康裕編 心理臨床大辞典(初版) pp913-914 培風館